ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	No.36B-1	調査位置				北　緯	36 ° 42 ’ 05.0000 ”
発注機関	栃木県烏山土木事務所　整備部			調査期間	2010-03-10 ～ 2010-03-13	東　経	140 ° 10 ’ 24.0000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	106.69 m	角度	180° 上 下 90° 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 30.00 °	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具	
総掘進長	10.05 m								エンジン		ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N 値 0 10 20 30 40 50	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
1	104.29	2.40	2.40		礫混じり粘土 (CH-G)	暗褐		中位	上部0.15mは腐植土である 0.60m付近まで粘性やや大きい 0.60m以深，砂分やや多くなり，含水・粘性小さい φ10～30mmの角礫を点在			1.15	1	2	2	5	8							
2												1.35	7		3	20	10							
3	102.24	2.05	4.45		粘土混じり砂礫 (GS-C)	淡褐～暗褐	緩い		崩積土である 含水比は低く粘性小さい φ5～50mmの角礫が主体である マトリックスは粒子不均一な砂と粘土でなり，所々固結している 3.00～4.00m区間は礫の混入量が少ない 4.00～4.20m間は含水比が高く軟質である		03/12 4.60	2.15	2	3	5	10 / 30	19			3.15	36B-1	(一)		03/10
4												2.45								3.45				
5	101.19	1.05	5.50		粘土混じり砂礫 (GS-C)	暗褐	密な		φ5～50mmの角礫(頁岩・砂岩)が主体である 地層に明瞭な乱れがないことから砂岩の強風化部である可能性が高い			3.15	6	6	7	19 / 30	8							
6												3.45												
7	96.64	4.55	10.05		風化頁岩 (Sh)	暗灰～黒灰			風化により軟質化しており割れ目が非常に多い。 礫状～岩片状コアを呈すが，所々細礫状コアとなる。 深部ほど新鮮になり，5～10cm程度の柱状コアで採取できる 5.50～6.00m間は打込みコアであり，乱したことで粘土化している 全体に細礫～礫状コアを呈し,マトリックスが溶解または細礫化している 8.00m以深はやや硬質となるが，割れ目が多く細礫状コアを呈す			4.15	2	3	3	8 / 30	8							
8												4.45												
9												5.15	5	7	7	19 / 30	19							
10												5.45												
												6.15	50 / 5			50 / 5	>50							
												6.20												
												7.00	43	7 / 2		50 / 12	>50							03/11
												7.12												
												8.00	35	15 / 4		50 / 14	>50							03/12
												8.14												
												9.00	50 / 4			50 / 4	>50							
												9.04												
												10.00	50 / 5			50 / 5	>50							03/13
												10.05												